

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



ニューヨークの経験が与えてくれたこと

山梨県観光部国際交流課長 藤巻 美文

CLAIR ニューヨーク勤務時代の経験が現在の仕事に役立っていることを書いてほしいとの依頼がCLAIR本部からあった。20年前に経験したことが現在の私の仕事にどのように生かしているか、具体的な例を示すことは難しいかと考えたが、担当者の熱意というか押しの強さに負けて、ともかくも駄文を提供することとした。

私は平成5年4月~平成8年3月までの3年間ニューヨークでお世話になった。この期間に取り組んだ仕事のうち記憶に残っているものの一つに、米国の地方団体幹部を対象に日本の地方自治の現場を経験してもらうという事業がある。参加者を募るため、全米市長会、市支配人協会や米国内の地方団体などを、上司である小滝所長(当時)に連れられて訪問したのだが、初回から大成功を収めた。これは、あらゆる知識が豊富で完璧な英語を話す小滝所長の個人的な能力に負うものだが、これに加えて、所長は、事前に訪問先の情報を調べ、提案方法を検討するなど、成果を見据えた準備を十分に行っていた。小滝所長と交わす言葉の端々に薫陶を受け、仕事に向かう姿勢に接することができたことは、今の私にとって大変大きな財産である。

さて、現在の私の仕事であるが、山梨県を訪問する外国人観光客の増加に取り組んでいる。山梨県の外国人観光客数の概ね50%は中国からだが、中国に並ぶような誘客市場をもう1つ育成することを目指している。そこで対象国を、アセアン諸国の中で人口規模が最も大きく、日本に対する好感度が高いインドネシアをターゲットに、ガルーダ・インドネシア航空と連携して、観光・誘客、県産品の販路拡大、進出企業支援、学術文化交流、スポーツ交流などの切り口でプロモーションを始めた。

平成25年10月にインドネシアで山梨県が初めて行ったトップセールスでは、(一財)自治体国際化協会の補助を受け、甲州ワインの試飲会を2日間連続でジャカルタの日本大使公邸を会場に開催し、インドネシアの主要なワイ

ン輸入業者とのネットワークを構築することができた。

インドネシアというとムスリム人口が9割に近いことなどから、日本酒やワインの売り込みのハードルは高いという印象があるが、本年5月末には、インドネシアソムリエ協会や現地財閥の一つであるスマレコングループの支援を得て、ワイン&チーズExpoの会場で山梨のワインと日本酒の愛好会である「山梨ハッピークラブ」が結成された。



「山梨ハッピークラブ」設立セレモニーの様子

こうした取り組みを通して、山梨ファンの輪がインドネシアの人々の間に広がり、将来、山梨を訪問するインドネシア人の増加につながることを期待している。

20年ぶりに、懐かしいニューヨーク時代を思い返してみると、通常業務のほかにも長野オリンピック組織委員会の放映権交渉の支援、ウィスコンシン州議会のボブ・ジャウク民主党上院院内総務の事務所での3ヶ月にわたるインターン、JETAA第1回世界大会の開催など、さまざまな経験をさせていただいた。

現在の私があるのは、ニューヨーク勤務以来現在まで、仕事へ取り組む姿勢の手本を示し、折に触れては連絡をくれ、また、仕事面でも応援してくれるCLAIR時代の上司、友人が居たからにほかならない。この場をお借りして心からお礼を申しあげたい。

プロフィール

- CLAIRでの経歴：
H4年4月~H5年3月：東京本部総務部総務課 主査
H5年4月~H8年3月：ニューヨーク事務所 所長補佐
H26年5月~：評議員
- 趣味：米作り、日本蜜蜂養蜂、舞茸原木栽培、日本原産植物の観賞